

令和3年1月1日

第46号

早稲田大学

武蔵野稲門会報



WASEDA BEAR
©2000 WASEDA UNIVERSITY

発行 武蔵野稲門会

〒180-0021

武蔵野市桜堤2-13-1-226

諸江 昭雄

TEL 0422(54)0873



(2020年) 第96回
箱根駅伝 早稲田大学 応援風景 <大手町>
撮影 山下倫一 (1971・商)
当会 写真同好会

あけましておめでとうございます 武蔵野稲門会会長 諸江 昭雄 (1963・法)

武蔵野稲門会のみなさま、あけましておめでとうございます。お変わりはございませんでしょうか。当会役員を代表して新年のご挨拶を申し上げます。

令和2年は1月25日の新年会開催を以って順調にスタートしましたが、ご承知の通り新型コロナウイルスの感染拡大により社会情勢は一変し、困難で我慢を強いられる日々が到来しました。

当会も大学・校友会の要請を受け、感染防止のため6月に予定していた総会を书面開催に切り替えるとともに、年内の同好会活動を原則として見送りました。

校友会・稲門会活動については、感染すると重症化のリスクが高いと言われているご高齢会員が多いことから2021年3月まで、感染対策を徹底の上で実施することが困難な(不安が残る)場合は活動を控えるよう要請されています。

当会のコロナ禍学生支援寄付金についてご報告です。昨年6月、皆さまに母校支援をお願いしたところ、延べ54人から643,000円のご寄付をいただきました。これに加えて、個人的に寄付をされた会員もいらっしゃいます。ありがとうございました。

2021年夏の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、社会は大きく変動すると思いますが、コロナをいたずらに恐れることなく、油断することなく、武蔵野稲門会に元気と笑い顔を取り戻したいと願っています。

感謝合掌

社会貢献活動

当会の社会貢献活動「マナーキッズ教室」が 日経新聞に紹介されました

2020年11月12日の日本経済新聞 夕刊に『大学の「校友会」で社会貢献』一卒業生集い地域に恩返し—というテーマで紹介されました。

紹介内容は「武蔵野稲門会の男女10人の有志が市内の小学校、保育園で子どもに体幹を鍛える運動や挨拶から始まるマナーを指導している。」

ほかに名城大学、中央大学の校友会の活動も紹介されている。写真は当会の活動風景。

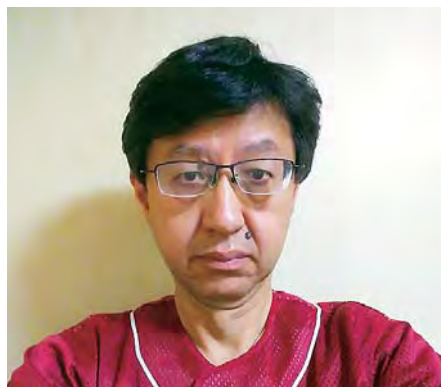


新会員自己紹介

還暦を迎え 地元稲門会へ

北原 譲 (1984・政経)

長野県諏訪市出身。在学時代は好学心の欠片あり、創法会（司法試験受験団体）に入会するも勉強が苦手で、モンブランスキー同好会に鞍替え。就職は今は不人気だが、当時は商社と人気を二分した銀行に（半沢直樹の池井戸氏は後輩）。ファイナンス稲門会に入会中。新宿、草加、静岡、渋谷、港区など勤務地の地域稲門会を転々。還暦を迎え、居住地の武蔵野稲門会のお仲間に。卒業35周年のホームカミングディで母校を訪れ、それを機に1984年度稲門会の幹事も。趣味は酒蔵見学（30ヶ所以上、味はわかりません）、ソフトボール（JOE'sのオーナー、市秋季大会準優勝）。よろしくお願いします。



俳句「稲穂会」

(二〇二〇年十月句会 本町コミセン)

「雲抜けるたびに大きく今日の月」 幸子(中村幸子)

今年の名月は見事でした

「在りし日の姿眼間(まなかい)菊枕」 つよし(市川毅)

追憶!

「生姜摺り下ろす一人の夕べかな」 宏治(池田宏治)

秋夕べ

「菊酒の幸あやからむぐいと飲み」 麟太(川崎大八)

食用の菊はデパ地下で

「秋夕焼け佐渡へと向かふ定期便」 秋雲(川島隆慶)

佐渡の夕焼け

「月天心わだちにはまるジープかな」 早春(栗間早春)

内モンゴルの月煌々

「菊枕今日生きし身を愛おしむ」 正風(星田正)

今日も生きていた

私の新型コロナ自粛生活(1)

会員の皆様から 「自粛生活」 についてご寄稿 いただきました。



「自然からの反撃」

やすい かずお
安井 一雄 (1953・政経)

10年以上も以前から、現状のコロナ時代を想定した何人かの日本或いは世界の経済学者の警告にも拘わらず、近代化の名のもと100年以前から人間優先の自然破壊が優勝劣敗の資本主義経済と相俟って強力に押し進められ、その結果に昨今の自然からの反撃がコロナとなって現れたものとなったと考えられます。

従って人間が自然の一員であることに立ち帰り地球規模の自然の回復と調和を目指した経済行動こそ不可欠であり、所謂近代化の後退を覚悟しなければならないと思います。

近々90歳を迎える小生は、永年所謂近代化に加担した経済人として反省の念を強くしつつ自粛生活をいたしております。

「コロナ下の巣ごもり記」

よだ むらじ
依田 連 (1967・商)

コロナ禍の下で武蔵野稲門会の皆様、昨今、如何お過ごしでしょうか。思い起こせば今春の「ペリー来航の黒船」ならぬ「クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号」の横浜港来航からはや9ヶ月になります。国の内外を問わず上に下への大混乱、今も打開の兆しが見えていません。小生の方といえばこれまで落語会やコンサート、エクステンションなどにマメに顔を出すというルーティンで過ごしておりましたところ、突然の自粛で催し物や展示会は中止or取り止めになり、エクステンションは今も閉じられたままです。これで小生が外出する予定は全てキャンセルとなり、途方に暮れていた時、更に政府・都・マスコミの大本営発表に乗せられ自宅であたり「塾居謹慎」をして日を過ごすしかないハメにあいました。このままでは心身がダメになってしまうと思っていたところ、折よく家から徒歩5分弱の市立中央図書館が6月に再開したのでこれはラッキーと7冊程貸出しを受けて読書三昧すること2ヶ月、長らく懸案だった石牟礼道子さんの「苦界浄土」を読破することができ手ごたえを感じています。今はコロナ禍が蔓延中ですのでカミユの「ベスト」にも取り掛かっていますがなかなか進みません。

自粛発令から3月経過した頃から東京と地方の往来が解禁されたので、辛抱はこれまでと思い7月末に八ヶ岳山麓の野辺山高原で真夏のゴルフをし、気分転換をしてきました。10月には東京でも「go to travel」が始まったのではとパスの「松茸食べ放題ツアー」に参加し松茸を存分に味わってきました。また先頃開催された武蔵野地域5大学共同講演会に行き、医師兼作家：鎌田實先生の「コロナ時代をどう生き抜くか」で「自分の体と心をまもる」ため、フレイル（虚弱）や認知機能の低下を起こさない術を学習することができました。

以上が簡単な報告です。武蔵野稲門会の皆様には「コロナ時代を何としても生き抜く」よう祈念してやみません！

「仕事をしながら自粛生活」

かわさき だいはち
川崎 大八 (1967・理工)

新型コロナであっても定刻通り出社して帰宅する生活に変化はありません。もともと仕事の関係上朝7時半には兜町のオフィスにいなればなりませんので。朝の電車は密ではなく座っていただけます。コロナが広まってからは、人が集まる場所は避けるようにしています。昼は一箇所に長時間かかる料理屋を避けて行かず、デパ地下で弁当を買うようにしています。会合は殆ど中止かオンラインになりました。そのため帰宅途中に丸善で週刊誌を買うついでに酒をデパ地下で買う機会が増えていきます。やはり日本酒です。週1回のつもりがいつの間にか殆ど毎日晩酌するようになり体重がなかなか減りません。

1年ほど前から武蔵野稲門会の俳句の会に参加しています。先輩の方々はそうそうたる方ばかりで参加してよかったと思っています。

安部球場の練習は見学できないので六大学はもっぱらTV観戦です。早川君が活躍して頼もしいです。秋は優勝しました。

最近の六大学はレベルが上がってきて六大学OBでチームを作れば有原、小島、森下の投手力に青木、茂木、中村、佐野、島内の打線は阪神よりも強く、菅野の巨人と互角、ソフトバンクといい勝負をすると思います。

「ITツールで新たな生活スタイルを」

くりばやし たかし
栗林 隆 (1970・理工)

コロナ禍で生活が一変しましたが、進化したITツールで新たな生活スタイルと向き合っています。

中心はYouTubeやネットワークソリューション。レシピ動画でピザ(掲載写真)やパンや料理作りに挑戦、日本では放送されない海外ニュースをグローバルメディアを通じて情報収集(大紀元他)、ネットでのギターレッスン受講や経済セミナー受講、ZOOMを使ったミーティング、パソコンの前にお酒を用意しての(味気ない)オンライン飲み会、ネットフリックスで久々に韓国ドラマにはまり、肥満防止に毎日Body combat体操・・・なんて生活をしていますが、そろそろリアルな生活に戻りたいですね！



私の新型コロナ自粛生活(2)

「ポジティブに工夫」

うめざわ まさはる
梅沢 正春 (1969・理工)

高齢で持病持ちの私は新型コロナウイルスによる致死率が高いので、2/23からずっとStay home. 中です。そこで家でいても出来る方法はないかを考えました。

1. 私の寝室にゴルフのパターの練習器とアプローチの練習器を置いて毎日50球練習しています。このパターとアプローチの練習はスコアアップに絶対に役立つと思います。
2. テニスもコートで練習できなくなりました。そこでゴム付きのテニスボールを購入し家の庭でストロークの練習を毎日行っています。
3. マンドリンも合奏練習が中止になり、伴奏の入ったCDを購入しスピーカーで伴奏を鳴らしながらマンドリン練習しています。
4. 英会話をフィリピンの先生とスカイプを使い練習し始めました。
5. パソコンはガイドブックをみながら勉強しています。そのお陰でSkypeやZoomも自由に使いこなし友人とテレ会話しています。

コロナ騒動でもポジティブにいろいろと工夫すれば人生も楽しくなります。

「犬の散歩と自転車対策」

にしむら みどり
西村 翠 (1973年・文)

2020年年初に左目が網膜剥離と分かり、新型コロナが話題となり始めた2月に手術を受けました。退院後は隠遁生活を宣言していた身にとって自粛生活は何の苦にもならず、世間の義理も魅力的なお誘いもお断りしながら、それなりに忙しく楽しく過ごしてきました。同居の犬と毎日お散歩、さらに多めに歩いて運動不足対策をしています。

ところが、そこで新型コロナにも勝る脅威に遭遇しました。歩道を走る自転車です。五日市街道では無法運転者が激増。運動のための外出が増えたせいでしょう。以前に比べ、より毎回ヒャッ！キャッ！の連続です。たぶん、すでに多くの方が実感されていることと思います。

しかし最近、この脅威から逃れる方法を見つけました。車道を歩けばよかったのです。自転車用の白線内は安心感を与えてくれるし、視界が良いので対向する車両・軽車両に早めに対応できます。今のところ(不思議なことに)歩道でのようなあおり運転…急ブレーキ、ベル、怒鳴る…や、猛スピードで追い抜いて行く自転車には出会っていません。この発見を知人に自慢したところ、知人はすでに実行中とか。車道歩きは新しい生活様式になっているのかもしれませんが。歩道より平らで電柱も無く、ソーシャルディスタンスもとれ、多くのストレスから解放されてますます快適な自粛生活になった今日この頃です。

改めて思うのは、私たちは、自転車・歩行者・車が穏やかに共存できない環境にあるということです。自転車がもっと快適に走れ、駐輪も簡単に電車にも手軽に乗り込めて移動できる…そんな街になってほしいと願いはじめて何十年経つことか…。物心ついたころから、望む社会のインフラが実現され続けてきた団塊世代の私(たち)としては、いつか自転車も歩行者も自動車もめでたしめでたしの時代がくると信じます。

が、今はただ、自転車事故に会うことなく、新型コロナを過去のものとし、心静かに機嫌良く次の年を迎えたいと願うばかりです。

「家族揃っての食卓」

こじま ゆきよ
小島 幸代 (1991・政経)

医療機関で働いているため、私自身は緊急事態宣言が出されていた時も、普通に出勤していました。

理系の長女の研究室の休みは数週間だけでしたが、文系の長男は自宅でオンライン授業、夫は在宅勤務と家族もそれぞれでした。家で揃って食事する機会は多くなり、主婦としては多忙になりました。

今年の新年会で皆様が晴れやかなお顔で一月一日をご唱和されていたことを思い出し、一日も早くあのような和やかな集まりが持てることを願ってやみません。



ひとけのない大隈講堂前
(9月5日 小島撮影)

「フェイスシールドで歓迎会」

やなか たつお
谷中 竜雄 (2001・法)

2020年11月1日の日曜日、戎ビヤホールにて有志による新入会員歓迎会を行った。諸江会長は、御子息が対コロナの最前線に身を置く医療従事者という事もあり、使い捨てタイプのフェイスシールドを一同に配布。このフェイスシールド、プラスチックシートの上部が糊面加工されており、そこを折り畳んで眼鏡のつるを包む。そうすると、コの字形になったシートが顔の前面を覆うという塩梅。この様な対策を施しつつ、お迎えした新入会員は、北原譲さん(1984年 政経卒)と前田真治さん(1919年 政経卒)。

北原さんは、長く銀行に勤務され、各地で稲門会に入られていたが、今回住域の稲門会にという事でご入会。前田さんは、大学ではバレーボール部に所属。現在の会社でも、続けてらっしゃるとの事。そして、北原さん同様、住域の稲門会に興味を持って下さり、ご入会。この日は、各自の大学時代の話や、最近の早稲田スポーツの活躍等に花が咲いた。

目に見えないコロナに頭を押さえつけられる様な日々が続いているが、そんな中でも、感染対策に留意しつつ、共に卓を囲む楽しみ。その貴重さを一同噛み締め、家路に就いた。

今回の会報は4P、
広告なしという変則的
なものであります。
これは校友会からの
「新型コロナ感染拡大
のため稲門会活動自粛
要請」があり、当会も基
本的に活動を停止して
いるためです。
今回皆様から寄せ
られた近況報告の原稿
を拝見し、前向きな生
活ぶりに感心させられ
ました。
何はともあれ2021年
がそれなりに良い年
になりますよう。
(徳田)

編集後記